

TOPICS



1月29日、高崎市・高崎ビューホテルにおいて、一日中小企業庁inぐんまが開催され、講演やフォーラムを通して、国の施策への理解を深めました。また、本会金子正元会長がパネラーとして「中小企業フォーラム」に参加しました。

当日は、4部構成となっており、初めに特別講演会として「中小企業の市場創造戦略」をテーマに嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科長黒瀬直宏氏が講演し、「大企業からの受注に依存しない事業を行うための情報を活用すべきであり、特に、お客様の何気ないひと言をキャッチすることが重要」と説き、様々な実例をもとに中小企業の市場創造戦略を語った。

一日中小企業庁とは…

一日中小企業庁とは、中小企業施策の責任者である経済産業省の幹部が各地を訪問して、中小企業者の方々に最新の施策情報を説明するとともに、参加者との意見交換や交流の場を設けて、今後の中小企業施策をより良いものにしていくためのイベント。



続いて、中小企業フォーラムが開催され、第1部では中小企業庁の最新の中小企業支援施策が紹介され、第2部では、中小企業経営者等との意見交換が行われた。同フォーラムでは、コーディネーターに前橋工科大学地域連携推進センター副センター長の下田祐紀夫氏を迎え、4名の経営者と4名

の支援機関代表者により活発な意見発表が行われた。

この中では、支援機関の代表として、本会金子正元会長も参加し、自らの体験を披露。金子会長は、仕事を通じた人との繋がりの中で取得した特許に触れ、「今では14カ国で、46特許を取得した。特許は20年で消滅してしまうので、開発の手は休められない。経営においては、種を撒いて、発芽して花が咲いたら満足するのではなく、必ず実をとることが大切」と強調し、「日本に対して希望を持ってないという海外の声が耳に入るのは残念」と語った。

また、「創業と新事業創出」の取組事例として、株式会社プラテック代表取締役市川祐子氏が「LED照明製造において開発より、企業の知名度が低いことにより販売での苦労が多い」と語り、有限会社COCO・LO代表取締役雅樂川陽子氏が「創業後、優秀な人材確保のため、家庭と仕事の両立を基本方針とし、従業員の立場に立った働く場の仕組みを構築し、事業を展開した」と語った。

次いで、「海外展開」の取組事例として、株式会社秋葉ダイカスト

工業所代表取締役社長日下田雅男氏が「海外進出して、日本のインフラ環境の良さを再認識した。日本には元気のある若者が不足している」と指摘し、昭和電気鋳鋼株式会社代表取締役社長手塚加津子氏が「現場のレベルが品質に現れる。建設業は景気の波があるので、忙しい時に海外で生産して対応しようとしたものの、不良品の発生率が高く、海外進出には人材、資金、時間が必要」と語った。

プログラムの最後は、株式会社日本レーザー代表取締役社長近藤宣之氏が「社員の成長こそが企業の成長・夢と志の経営」をテーマに、中小企業の経営で大切にしているものや具体的な取組みについて講演を行った。

全てのプログラム終了後には、交流会が開催され、中小企業、支援団体、行政関係者による情報交換が行われた。

また、別会場では、一日中小企業相談室も設けられ、法律、金融、経営等、中小企業の様々な相談を受けるとともに、国、県、市、支援機関の各施策リーフレットが配布され、併せて、群馬県優良企業表彰の表彰式が行われた。